

JOSHIBI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN ALUMNAE ASSOCIATION

JOSHIBI

一般社団法人 女子美術大学同窓会 会報

2025 June No.48

さどりの草に徳の花
しほる学びのわが園は
かおりめでたき菊坂に
幾千代までも栄えなん





1900年(明治33年)に創立し、今年125周年を迎える女子美。その長い歴史の中で初めて、「五世代で女子美生」のご一家が誕生しました。五世代にわたり女子美に入学されてきた理由はどこにあるのでしょうか。五代目の松本好央(みお)さんのお話から、女子美生の今昔をたどります。

家庭で、オープンキャンパスで先輩女子美生の言葉が進学を決め手に

「女子美の楽しさは母からよく聞いていて、その存在はずっと身近に感じていました」。女子美の印象について、まずそう話してくれた松本好央さん。一代目のふささん、二代目の信子さん、三代目の倫子さん、四代目の真理子さん、恵理子さん姉妹に続く、ご一家で五代目となる現役女子美生です。「祖母(倫子さん)と母(恵理子さん)が墨彩画を描いていて、教室を開いていたので、幼い頃から墨彩画に親しんで育ちました。祖母も母も、事細かく指導するというより、自主性を尊重して好きなものを自由に描かせてくれるスタイル。祖母と母が出展する展覧会に、8歳の頃初めて作品を出しました。以来、展覧会に作品を出展したり、家族でそれを見に行ったりすることは続けていました」。幼少期から創作を続けな

がらも、本格的に美大進学を目指し、女子美への受験を決めたのは高校生になってからだそう。その決断に、五代目という意識はあったのでしょうか。「プレッシャーなどはなく、母の話などから女子美を魅力的に感じていたということがまずあります。さらに決め手になったのが、参加したオープンキャンパスで先輩方に直接話を聞いたこと。専攻する分野だけでなく、幅広い表現を学べて自由に作品制作ができる、制作の幅を広げられると感じました。自分の制作スタイルに合うと思い、女子美を目指すことに決めました」。



自分らしい着眼点で、表現方法で女子美での学びを活かして描き続けたい

現役女子美生として創作を続ける中で、五代目ではよかったと感じることはあるのでしょうか。「祖母も母も絵を描いていたので、子どもの頃から、『こんなものを創りたい』『こんな道具を使ってみよう』と思うと、家ですぐ実現できる環境がありました。やりたいときにやりたいことができる経験の積み重ねは力になっていると思います。祖母も母も基本的に自由に描

かせてくれる中で、母がよく常に言っていたことは、『デッサンだけはしっかりやっておきなさい』ということでした。デッサンができないと、何を描くにしても自信を持って表現できない。だから、デッサンはよく描くようにしています。迷ったときは祖母や母にアドバイスをもらうこともできるし、家族だからこそ言い合える空気というものもある。恵まれた環境だと思います」。

好央さんは今年、最終学年の4年生に。将来のビジョンについても伺いました。「下地のマチエールの表現に

興味があり、研究を続けています。今後も、いろいろな実験や挑戦を続けて、さらに制作の幅を広げたい。そして、それを活かした作品を描き続けられるようにがんばりたいと思っています」。さらに今年、好央さんとご一家に大きなニュースが。なんと、好央さんの妹の早由さんが女子美に合格し入学が決定。ご一家に7人目の女子美生が誕生します。「女子美への進学について特に話し合ったことはありませんでしたが、絵についてお互いアドバイスし合うことはよくありま

した。妹の絵はおもしろいです。絵を描くときに何に注目するか、その着眼点は人それぞれだと思います。私は着眼点が少し変わっていると思うのですが、妹は私とはまた別の方向で変わっていると感じます。1年間ですが一緒に通学できるので、自分とは違う制作スタイルが見られることを楽しみにしています」。やりたいことを自由に、自分らしく。校舎も、表現技術も、さまざまなものが進化し変わっていく中で、受け継がれていく変わらない女子美生らしさがありました。

さどりの草に徳の花
しける学びのわが園は
かおりめでたき菊坂に
幾千代までも栄えなん

胸かけたるやたかがみ
かがみどなして朝夕に
つゆおこたらず学びつつ
光をそえよまごころに

本号の表紙について.....
大正9年(1920)に制定された「女子美術大学 校歌」の歌詞を添えました。美しい旋律と歌詞で親しまれ、今もなお歌い継がれています。

作詞 佐藤進 作曲 岡野貞一
(第3代校長) (文部省編纂 小学唱歌 作曲委員)



◀2025年度に入学した妹 早由さんと。グラウンドの桜が咲きはじまる中で入学式だった。

自由な制作を求めて洋画専攻へ
女子美生の多彩な個性と自由さを実感

日本画科・西洋画科・彫塑科・蒔絵科・編物科・造花科・刺繍科・裁縫科の8専攻でスタートした女子美。以来、たびたび学科の再編が行われてきました。創立125周年にあたり、現在も教育組織再編が進められています。好央さんが進んだのは、芸術学部美術学科洋画専攻。2022年に入学し、今年4年生になります。

「洋画だけでなくさまざまな制作ができる環境があり、女子美の中でも特に自由だと感じて、洋画専攻を選択しました。1年次から、立体、インスタレーション、版画、CGなど幅広い表現を学べました。作品制作に活かせるようにとにかくいろいろなことを学びたいと思っていたので、とても楽しかったです。3年次の現在も、自由度の高さは常に感じていて、洋画専攻ですが表現に縛りはなく、墨彩画の作品な

ど自由に制作しています」。

制作に関してだけでなく、女子美生の自由さも実感しているそう。

「女子美生は個性が強い人が多く、その個性が集まっているのが女子美という場所。みんな全然違うけれど、みんなが集まると楽しいです。女子美しかない女子大ならではの自由な雰囲気というも感じます」。

好央さんの母・恵理子さんは、姉の真理子さんと同じ短期大

学彫塑教室に進学。その後、芸術学部芸術学科造形学専攻に編入し、1993年に卒業しています。

「母からも、友達との楽しかった思い出など、女子美生時代の話はたくさん聞いてきました。祖母と母の作品を見て、言葉や生き方に触れていると、何事にも縛られず自由なのが、世代に共通する女子美生らしさのひとつなのかなと思います」。



▲相模原キャンパス(2号館 学生食堂)
◀相模原キャンパス(8号館 洋画研究室前)



◀相模原キャンパス構内のお気に入りの場所。
作品「多田美波「張」」

一代目のふささんは、校歌にも登場する本郷区(現文京区)菊坂の校舎で学ばれたそう。女子美は1935年に杉並区へ校舎を移転。1990年に相模原市に相模原キャンパスを開設しました。四代目の恵理子さんが卒業を迎えたのは、開設間もない相模原キャンパス。その後、各キャンパスで施設の再整備や増築が行われてきました。

「高校生のとき、相模原でのオープンキャンパスに参加した際、母も一緒に来てくれたのですが、『校舎が増えていてどこがどこか全然わからない』と言っていました。また、制作環境を見たり、制作体験などをする中で、制作の幅が広がっていること、表現技術が進化しバリエーションが増えていることなどを実感したようでした。母の時代に比べ、校内の施設や設備もより充実していると思います」。

展示やワークショップなど、

女子美の今に触れられる新しい取り組みも増えています。「私もお手伝いをしたことがありますが、在学生も体験したくなるような魅力的なワークショップがたくさんあります。女子美への進学を考えている受験生には、女子美の自由な雰囲気、自由な制作が許される環境、個性的な女子美生の楽しさなどを伝えて、進学を後押ししたいです」。

進化を続ける相模原キャンパス内に、好央さんがお気に入りの場所があると教えてくれま

した。「食堂の近くの、銀色のオブジェ(作者:多田美波 作品:「張」)と木々が立っているところ。昼間の明るい光と、木から落ちる影がとてもきれいで、雰囲気がよくて好きです」。

オブジェ作者の多田美波さんは、1944年に女子美術専門学校(現女子美術大学)を卒業された彫刻家。各キャンパスでは、さまざまな形で女子美の先輩方の作品に触れることができます。

五世代が
通われていた
校舎

画像資料提供
女子美術大学歴史資料室

〈1代目〉久野木ふささんの頃



私立女子美術学校 菊坂校舎
明治42年(1909)

〈2代目〉奥田信子さんの頃



女子美術専門学校 杉並校舎
昭和10年(1935)頃

〈3代目〉和田倫子さんの頃



女子美術大学 杉並校舎航空写真
昭和36年(1961)頃

〈4代目〉夏目真理子さん(姉)
松本恵理子さん(妹)の頃



女子美術大学 造形科グラフィックデザイン教室
平成3年(1991)大学案内



女子美術大学 相模原キャンパス正門
平成3年(1991)大学案内

〈5代目〉松本好央さん(姉)
松本早由さん(妹)の頃



女子美術大学 相模原キャンパス正門
令和元年(2019)

母・娘二代で通う相模原キャンパス
より幅広い学びへ、学習環境・設備の変化

同窓会生にはお得な特典があります!

- 1 女子美術大学図書館(相模原・杉並)の利用
- 2 お住いの地域支部(国内・海外)に入会可能
- 3 個展などの情報を同窓会ホームページに掲載
- 4 同窓会員宛発送代行サービス(有料)
- 5 杉並キャンパスの同窓会室の利用

ご利用方法

① 同窓会ホームページの画面左下部 **会員専用ページ** をクリック。
下記QRコードから会員ページに直接接続することもできます。



② 会員ID/パスワードを入力後、**ログイン** をクリック。



会員ID/パスワードの確認方法

- 2024・2025年卒 — 別送の圧着ハガキ内に記載 (2024年6月郵送済、2025年5月郵送)
- 1980～2023年卒 — 会報誌に同封の宛名兼振込用紙(裏面)に記載 (2023年6月郵送済)
- 1979年以前卒 — 事務局へのお申し出により発行いたします。

初回ログイン時には、メールアドレスと生年月日の入力が必要となります。

- ▶ ログイン後、会員ID/パスワードは自由に変更可能
- ▶ 万一、変更したパスワードを忘れてしまった場合は、登録済みのメールアドレスと生年月日で即時に再発行可能

※セキュリティはシステム管理者にて十分に守られますが、各会員に置かれましても、ご自身のID/パスワードは確実に保管していただきますようお願いいたします。

会員専用ページの機能

- ▶ ご自身の登録情報の確認と変更
住所、勤務先などの情報はご自身で変更いただけますようお願いいたします。
- ▶ 登録情報の公開範囲設定
どの程度公開してよいか(「全会員に公開」「同年卒・同年修了にのみ公開」「非公開」、ご自身で設定してください。
- ▶ 同窓生の検索閲覧(web版同窓会名簿の閲覧)
同窓生の情報のうち、本人が公開を許可した情報を検索・閲覧できます。

卒業後20年以上の皆様へ
寄付金・支援金ご協力のお願い

維持会費

同窓会では女子美らしい様々な活動や、国内外の支部活動の支援に努めております。また、年1回の会報誌「JOSHIBI」を同窓生の皆さまにお届けしております。同窓会の近況や支部活動の一端をご紹介します、女子美を身近に感じていただけるような情報発信に取り組んでおります。これらは卒業生の納める会費と皆さまからの寄付金により成り立っておりますが、現在の新入会員約1,000名の会費による運営は、年々厳しさが増しております。これまでも様々な経費節減に取り組んで参りましたが、安定した同窓会活動を継続していく為に、卒業後20年を経過した皆さまには年2,000円の維持会費(寄付)をお願いしております。会費はまとめて振り込むことも出来ます。女子美と同窓生の活動、交流の支援という趣旨へのご理解を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付のお申し込みはこちら(オンライン決済)



学生奨学金・学生支援金

女子美術大学、短期大学部では、貸与型や給付型のいくつかの奨学金制度を設けています。同窓会では返済不要の給付型奨学金による学業奨励、経済的支援を行っています。また、2024年度から学生支援金として、学費に限らず様々な形の支援を行っています。今後も後輩たちの希望に満ちた実りある学生生活を支援するために、是非ともご協力をお願い申し上げます。

自然災害支援金

昨年末から年始にかけて東北を中心に記録的な降雪量になり、1月には日向灘でM6.6の地震が観測されました。また近年ゲリラ豪雨、台風、落雷など、私たちの暮らしは自然災害と隣り合わせになっています。皆さまからお預かりした自然災害支援金は、大規模な自然災害が発生した際に活用されます。その都度検討を重ね被災の状況に応じて支援をいたします。皆さまの暖かいご寄付をお待ちしております。

ご寄付方法

維持会費・学生奨学金・学生支援金・自然災害支援金・懇親会費などのお支払いにクレジットカード払いが利用可能です。クレジットカード払いは同窓会ホームページ(下部QRコード) **会員専用ページ** からの受付となっております。



一般社団法人 女子美術大学同窓会
Joshibi university of art and design Alumnae Association
設立: 1917年(大正6年)6月25日
各種詳細は同窓会事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ

女子美術大学同窓会事務局(閉局日:土曜日・日曜日・祝日)
〒166-0012 東京都杉並区和田1-48-12
tel 03-4335-6946 e-mail dosokai@venus.joshibi.jp
fax 03-6745-9570 web www.joshibidosokai.net

